

ミツカン水の文化交流フォーラム2006 開催のお知らせ

里川とは SATOGAWA

いま求められる川の価値とは (仮)



写真は、
昨2005年のフォーラムと
交流会



里川は、生態系サービスと社会システムが適合した持続する川と呼ぶことができるものです。いわば「使いながら守る川」ですが、その仕組みは、人が暮らす場・生業・時代によって多様な姿となって現れます。本フォーラムでは、「利用しながら守る川」＝「里川という視点」について討議し、今求められる里川像についてディスカッションを行ないます。

2006年**10月31日** (火)

フォーラム：13:30～17:15 (予定)

交流会：17:30～19:00 (予定)

会場：東京ウィメンズプラザ

東京都渋谷区神宮前 5 -53 - 67

小野芳朗 (岡山大学教授)

鬼頭秀一 (東京大学大学院教授)

島谷幸宏 (九州大学教授)

陣内秀信 (法政大学教授)

鳥越皓之 (早稲田大学教授)

上記のみなさまの登壇を予定しています。



小野芳朗
岡山大学教授
(環境工学・環境史)



鬼頭秀一
東京大学大学院教授
(環境倫理学、科学技術社会論)



島谷幸宏
九州大学大学院教授
(河川工学、河川環境)



陣内秀信
法政大学工学部教授
(建築史、都市史)



鳥越皓之
早稲田大学教授
(環境社会科学)

なおプログラム等予告なく変更する場合がございます。予めご了承ください。

『里川を考える』(仮)

出版のお知らせ

刊行予定 2006年10月

ミツカン水の文化センター企画、鳥越皓之・嘉田由紀子・陣内秀信・沖大幹 編による『里川を考える』(仮)を出版いたします。

当センターでは、機関誌15号(2003)『里川の構想』を出発点に、「里川」というコンセプトについて検討を重ねてきました。『里川』を考える上で、この本が一里塚となるべく、ただ今、編集中です。

島谷幸宏、吉見俊哉、平田オリザ各氏に登場いただいた当機関誌の連載「里川対談」の詳細版も掲載する予定です。

■水の文化24号予告

特集「都市公園」(仮)

都市の身近な水辺でもある公園は、時代とともにいろいろな役割を果たしてきました。現在、景観や緑地保全の分野で従来の公園像に代わる新たな「姿」が模索されています。人々はどのような場を「公園」に求めているのでしょうか。



水の文化 Information

『水の文化』に関する情報をお寄せください

本誌『水の文化』では、今後も引き続き「人と水との関わり」に焦点を当てた活動や調査・研究などを紹介していきます。ユニークな水の文化楽習活動や、「水の文化」にかかわる地域に根差した調査や研究などの情報がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

ホームページのお問い合わせ欄をご利用ください

<http://www.mizu.gr.jp/>

水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はホームページにてバックナンバーを提供しています。すべてダウンロードできますので、いろいろな活動にご活用ください。

水の文化人ネットワーク 夏の登壇者

当センターホームページ・水の文化人ネットワークコーナー。以下の方々を順次アップロードする予定です。

小野芳明 岡山大学教授

篠原 修 政策研究大学院大学教授

編集後記

◆ 人間の身の周りに水が乏しくなると、まさしく「命の水」と呼べるのだが、自分的には「命の水」はアルコールと結びついてしまう。江戸の水売りは、命をつなぐ水の運び手であり、それは他人を思いやるやさしさ。心意気によるところが大きかったようだ。現代の水売りにも、安全・安心とか嗜好、簡便などのキーワードで括れる「心意気」が宿っているのだろうか。…。(新)

◆ アトピー持ちが多い我が家の風呂には、水道水を「肌によさしい水」にする浄水器がついていた。探してみるとこうした付加価値のついた水がたくさんあり、私たちが水に対して求めることの多さに気づく。この先水は、どこまで進化(?)するのか。とても興味深い。(百)

◆ 江戸の水売りの心意気を想像すると、果たして今の自分が己の仕事にどれだけ心意気つてもたもっているのだろうか、と素直に考えさせられた。心意気あふれた売り声のにぎやかな江戸の町は、今とはずいぶん聞こえてくる音が違っただろう。ふと築地やアメ横に行ってみたくなった。(ゆ)

◆ 食品の仮想水の議論は有名だが、工業製品や商品の流通にどれくらい水が投入されているか、意外と重要な問題かもしれない。目に見える水との関わりだけではなく、ヴァーチャルな水の関わりに私たちの生活は囲まれている事に改めて気づかされた。(中)

◆ 田舎暮らしを始めた。土地探しの再優先項目は、水。幸い湧水を得ることができたが、上流にゴルフ場がないことが決め手であった。地図を見ると、我が家がいかにラッキーであったかがよくわかる。きれいな水と汚い水。その分かれ目は、目にも舌にも感知できないところに表れる。(賀)

ミツカン水の文化センター機関誌

水の文化

第23号

ホームページアドレス
<http://www.mizu.gr.jp/>

※ 禁無断転載複写

発行日 2006年(平成18年)7月

企画協力 沖 大幹 東京大学生産技術研究所助教授
嘉田由紀子 京都精華大学教授
古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会
陣内秀信 法政大学教授
鳥越皓之 早稲田大学教授

編集 秋山道雄 新美敏之 百瀬友美 小林夕夏 辻美代子
中庭光彦 緒方大輔 賀川一枝 賀川督明

発行 ミツカン水の文化センター
〒104-0033 東京都中央区新川1-22-15 茅場町中塾ビル9F
株式会社ミツカングループ本社 社会・文化活動センター内
Tel. 03 (3555) 2607 Fax. 03 (3297) 8578
ミツカン水の文化センター 事務局
〒143-0016 東京都大田区大森北2-2-10・4F
Tel. 03 (5762) 0244 Fax. 03 (5762) 0246

お問い合わせ